

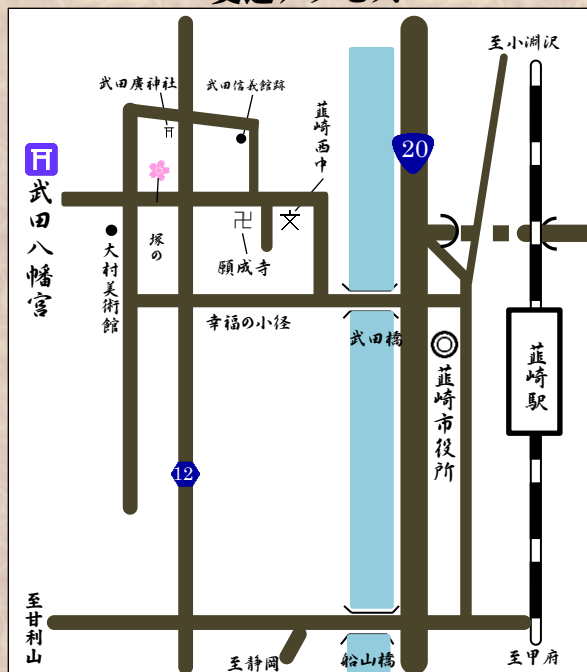


武田八幡宮

（甲斐武田氏発祥の社）



交通アクセス



【東京方面から】

- ・中央本線(新宿駅～韮崎駅『あずさ』で1時間30分)
 韮崎駅からバスで15分(韮崎市民バス 円野線)
 「武田八幡宮入り口下車」
- ・中央自動車道(八王子IC～韮崎ICで約1時間30分)
 韮崎ICから15分

【名古屋・長野方面から】

- ・中央本線(松本駅～韮崎駅)
- ・韮崎駅からバスで15分(韮崎市民バス 円野線)
 「武田八幡宮入り口下車」
- ・中央自動車道(諏訪IC～韮崎ICで約1時間)

【静岡方面から】

- ・静岡市から中部横断道で約2時間

〒407-0042
 山梨県韮崎市神山町北宮地1185

TEL 080-1008-5538(携帯)
 URL <http://takedahachimanguu.com/>

御祭神

ただたけのおおかみ
武田武大神

・・・日本武尊の子

たらしなかつひこのみこと ちゅうあいてんのう
足仲津彦命(仲哀天皇)

・・・武の神

おきながたらしひめのみこと じんぐうこうごう
息長足姫命(神功皇后)

・・・安産の神

ほむだわけのみこと おうじんてんのう
誉田別命(応神天皇)

・・・文武の神

御由緒

武田八幡宮は、弘仁13年(822年)嵯峨天皇により、武田王を祀る社を桜の御所から現在の地に遷宮し、九州の宇佐八幡宮を勧請して合祀し創建されたのが起りといわれています。その後、貞観年間(859-876年)には京都石清水八幡宮の御霊を社中に勧請しています。甲斐源氏の流れをくむ、新羅三郎義光の曾孫、竜光丸は13才の保延6年(1140年)武田八幡宮の神前で元服して武田太郎信義と名乗りました。これが名門甲斐武田氏の発祥です。信義公は広大な館を構えるとともに、武田八幡宮の本社・末社など御建造され武田家の氏神として尊崇しました。

—本殿—

三間社流造檜皮葺の本殿は、天文10年(1541年)武田信虎・信玄公により再建されたものです。武田氏が滅亡した後も、徳川家や甲府藩主の柳沢吉保が神社に関わっていることも確認されています。昭和4年本殿が国の重要文化財に指定されました。昭和9年に解体修理、昭和55年に屋根葺き替え及び部分修理を行い、この度(2019年)40年ぶりの葺き替えを行いました。



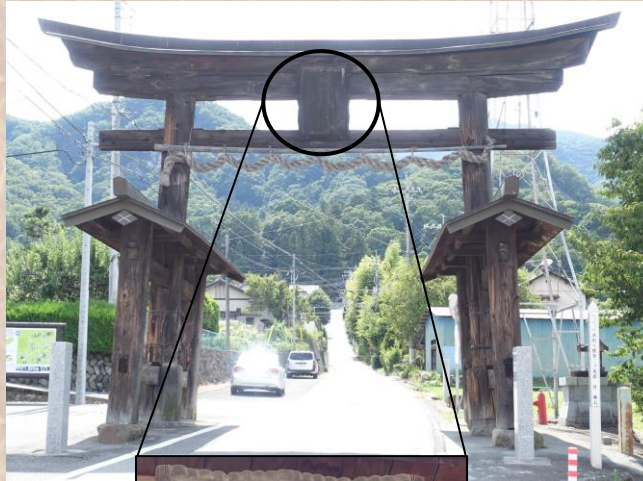
魔除けの鬼

—勝頼夫人願文—

武田勝頼公は、天正9年12月24日新府城に入城しました。すでに形勢が悪く、織田信長に攻め立てられました。夫人は武田家の守護神である「武田八幡宮」に祈願を決意し『祈願文』を納めましたが、残念ながら願い届かず勝頼公は天正10年3月3日に新府城を後にし岩殿城へ向かいました。そこで小山田氏の裏切りにあい田野で自害しました。時に夫人は19才でした。

—ニノ鳥居(両部鳥居)—

建てられた時期は、はっきりしません。額束の裏面には元禄14年(1701年)再興、寛政元年(1789年)再々興とあることから280年余の歳月が経っていると思われれます。高さ7m、笠木の長さ9.8m中央部に武田八幡宮と書かれた額が掲げられていますが、これは信玄公が書いたものだと伝えられています。武の字が一画多いのは刀を抜かないと決意した公の心情を表しているといわれています。文字が風化して今でははっきりしていません。



額束

武田八幡宮

—石造りの明神鳥居(三の鳥居)と石垣—

石垣の上に立つ石鳥居と正面参道側の石垣と石段、随神門前の石積みは神社の境内の入口にあたる社頭の部分の形態としては、他に例のない珍しいものだと言われています。石垣と石鳥居の配置に特別の関係があるようです。この特色ある状態を保存する為に、正面の長さ6.03m、高さ1.67m程の石垣とその上に立つ鳥居が県の文化財として指定を受けました。

—摂社・為朝神社—

為朝神社は鎮西八郎源為朝公を祀った神社です。為朝公は源為義公の八男で、性格は剛柔両面を兼ね備えた人であり、古今未曾有の強弓の武人といわれています。保元元年(1156年)保元の乱には父に従って奮戦したが敗れて捕らえられ伊豆大島に流されました。やがて伊豆諸島を征服してしまいました。その後、国司の命にも反抗し捕らえられ嘉応2年(1170年)伊豆大島で自刃したといわれます。信義公と為朝公は三代遯ると兄弟である義家と義光になりごく近い間柄でありました。信義公が元服したときの烏帽子親公は為朝公の父であったことから、互いに信頼し合える仲でした。11才年上の信義公は為朝の死後、館に神社を建立して遺品を納め、御霊を祀ったといわれています。

